

令和8年度第1回箱根町総合計画審議会及び  
まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

1. 日 時 令和8年6月15日（月）午後1時15分～3時
2. 場 所 本庁舎4階 第1～2会議室
3. 出席者【委 員】  
市川委員、高畠委員、相良委員、出口委員、久保内委員、  
田中委員  
【箱根町】  
企画観光部長、企画課長、企画課副課長、企画係長、総合計  
画策定委託業者(株)さとゆめ
4. 内 容
  - 1 開会
  - 2 議 題
    - (1) 次期総合計画基本構想骨子案について
    - (2) その他

企画課長

それでは、令和8年度第1回目の「箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議」を始めさせていただきます。

議事に入るまでの進行を務めます、今年度から企画課長となりました藤田です。どうぞよろしくお願いいたします。

資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、先日お配りいたしました「会議次第」「箱根町第7次総合計画・箱根町第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略〈基本構想骨子〉」となります。お手元にございますでしょうか。

次に、この会議におきましては、前回に引き続き、皆さまの前にある音声認識システムを使用します。

お手数ですが発言の際は、右下のグレーのボタンを押すと、マイクの先が赤く光りますので、その後に発言をお願いいたします。発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただきますようお願いいたします。

それでは、議題に移りたいと思いますが、会長からご挨拶をいただき、引き続き、議事の進行につきましても会長にお

願いたいと思います。

会長

皆さん、こんにちは。次期総合計画等策定の会議は今回で4回目となります。お手元に基本構想骨子案がありますが、今回も配付が直前となってしまい、申し訳ありません。現段階では総合計画を作る初期段階にあります。だんだんと本格的な内容になってきます。本日は4名の委員がご欠席ということですが、ご出席いただいた委員の皆さんには、積極的にご発言をお願いしたいと思います。

議題に入る前に、今回の会議からご出席いただいている委員に一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

委員

本年度、自治会連絡協議会会長を仰せつかり、今回が初めての出席となります。10年後を見据え、より良い箱根を目指すべく、意見を出し合い、考えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

会長

ありがとうございます。それでは議題に入ります。

前回の会議で、事務局から次期総合計画の骨子となる基本構想の将来像や取り組むべき施策について説明があり、皆さんからご意見をいただきました。そのご意見を踏まえ、今回は総合計画の形に落とし込んだ基本構想骨子案を作成してもらいました。ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思います。それでは資料の内容につきまして、事務局から説明をお願いします。

企画課副課長

前回の会議で基本構想の考え方を皆さんへお示しし、多岐に亘る貴重なご意見をいただきました。本日はそのご意見等をもとに、追加・修正等を行った基本構想骨子案についてご審議いただきたいと思います。

それでは表紙をおめくりいただき、目次をお願いします。序論の「計画策定にあたって」はこれまでの会議で皆さんにお示ししました今回の総合計画の構成や箱根町の今とこれからについてまとめてあり、これまでの説明と重複する部分もありますので、省略しながらご説明させていただきます。

3ページをお願いします。「第1節 総合計画について」ですが、次期計画はこれまでの10年単位のまちづくりの考

え方を見直し、計画期間の先にある未来である 2050 年頃の将来像を描き、継続性や連続性を持ってまちづくりを進めていくこと、またその理由などをお示ししております。

5 ページをお願いします。計画の構成になりますが、今回の計画も、従来通り将来像などを示す基本構想、その実現に向けた重点戦略の施策や数値目標、分野別方針を示した基本計画、そして別途作成する実施計画で、構成することをお示ししています。

6 ページをお願いします。総合計画と総合戦略の一体化ですが、国が策定を努力義務としている総合戦略について、総合計画にその内容が包含されるものとして、前回同様に一体的に策定することをお示ししています。続いて総合計画の計画期間について、基本構想を令和 9 年度から 18 年度までの 10 年間、基本計画は前期として令和 9 年度から 13 年度、後期として 14 年度から 18 年度のそれぞれ 5 年間とすることを示しています。

7 ページをお願いします。「第 2 章 箱根町のいま」として、第 1 節では箱根町の地域特性や人口、産業といった現状を整理しています。こちらは前回までの会議でお示した内容となりますが、「(2) 人口」については、先日国勢調査の速報が公表されましたので、最新の令和 7 年の人口、10,274 人を新たに記載しております。

8 ページは省略させていただき、9 ページから 11 ページまでは、箱根町の行財政の現状を記載しています。これまでの総合計画では、財政に関する記述はありませんでしたが、次期計画からは、町が厳しい財政状況の中で、予算配分が限られていること等について理解していただくような内容をグラフ等を用いて示していきたいと考えております。

9 ページでは、経常的経費の割合が大きく、投資的なものになかなかお金を回せないという現状、10 ページでは、財政力指数が高く、国の交付金の不交付団体となっているもの、観光まちづくりに関する経費が多く発生していること、11 ページでは、この先大きな財源不足が見込まれていることを示しています。

12 ページでは、第 6 次総合計画期間における取組の成果、次の 13 ページでは積み残した課題や新たに発生した課題を示しております。課題については 20 ページでもまとめてお

りますので、ここでは省略させていただきます。

14～15 ページの「第4節 箱根町を取り巻く社会動向」では、今後のまちづくりに影響を与えうる社会的動向を整理しております。

16 ページをお願いします。「第3章 箱根町のこれから」として、将来人口の推計を16 ページから18 ページに記載しております。資料のグラフが小さいため、机上に拡大したものををご用意しておりますので、そちらをご覧ください。将来人口の推計については、先日公表された国勢調査の速報をもとに推計し、特に外国人については、かなり時間をかけて事務局で議論しました。16 ページは日本人の人口推計となりますが、年齢別人口の加齢に伴って生ずる変化を死亡や出生、人口移動などの要因ごとに計算し、将来人口を求めるコーホート法により算出しました。令和7年に9,309人だった日本人の人口は、令和18年には7,741人と1,568人減少すると推計しました。

17 ページをお願いします。次に外国人人口の推計ですが、コロナ禍収束後、急激に増えている外国人については、観光業などでの人材不足は継続すると想定されるものの、令和7年と令和8年の動きを見ると、これまでの急激な増加から、やや鈍化している傾向も見られることから、全国的な外国人動向も踏まえ、令和18年度は2,197人になると推計しました。

18 ページをお願いします。16～17 ページで説明しました日本人、外国人の人口推計の合計になりますが、現状では1万人以上を維持している総人口は、計画期間終了の令和18年には9,938人と1万人を下回る推計となりました。減少のスピードが緩やかな理由は、外国人の増加によるもので、外国人の比率は令和18年には2割強になると推計しております。この人口の推計値についても、皆さんが日頃感じていることを踏まえてご意見をいただきたいと思えます。

19 ページをお願いします。財政の見通しについては、歳入・歳出ともに厳しい見通しであり、令和10年度以降は、年平均10億円以上の財源不足が生じる見込みと記載しており、その中で、財源不足を補う宿泊税導入に向けた検討を進めていることを記載しております。

20 ページをお願いします。この節では、これまでの町の現

状や将来予測、社会動向を踏まえ、これからのまちづくりにおいて重要視する課題を示しており、後で説明する重点戦略の根拠となるものです。

「(1) 町民が安心して暮らし続けられる環境づくり」として、暮らしでの課題である買い物、医療、移動、若者定住や防災について記載しております。

(2) は、人口減少による地域コミュニティの担い手不足や観光人材の不足、(3) は増加する外国人住民との共生として、(1) から(3) までは暮らし分野の課題を挙げております。

(4) は今後の観光の発展のための課題、(5) は財政面や人材面での行財政の課題をまとめております。

それらを踏まえた基本構想が、22 ページ以降になります。

23 ページをお願いします。3 ページでもお示しした、今回の総合計画での 2050 年を目標とした将来像の考え方について図を入れて説明しております。

24 ページは、2050 年に目指す将来像の説明になります。前回の会議では、観光と暮らしに、両者を支える行政を加えた3者の好循環により、町がさらににぎわい、そのにぎわいが町民の暮らしの向上に繋がり、町民一人一人が幸せを実感できる持続可能な姿を実現する、というイメージを表現できるものとして、「にぎわいが暮らしの幸せを増やすまち一箱根」を将来像として提案させていただきました。皆さんからは概ね同意をいただいたものですが、町内部で検討を続けた結果、今回、「にぎわいと自然の恵みを礎に幸せめぐる未来へ」というフレーズを新たに提案させていただきます。検討の中で、もう少し箱根らしいフレーズを入れたらどうか、という意見があり、アンケートからも町民が自然の豊かさを誇りに思い、住み続けたい理由として挙げていること、箱根の観光に自然の豊かさはなくてはならないものであること、これらを反映して、「自然の恵み」という言葉を将来像に入れました。また、前は「にぎわいが暮らしの幸せを増やす」としておりましたが、「にぎわい」と「暮らし」双方の間で幸せが循環する意味合いが良いという意見から、「幸せがめぐる」という表現に修正しました。この将来像についても、皆さんのご意見をいただきたいと考えております。

25 ページをお願いします。2050 年の将来像実現に向けて、

今回の10年の計画期間でどこまで進めるかという点で、この10年間で、「暮らし」と「観光」が好循環を生み出すための土台を固める「構築・転換期」としております。また、3つの分野の目指す姿についてもお示ししております。この部分は前回の会議から変更はありません。

26ページをお願いします。前回会議でも、基本方針としてお示しましたが、若干修正し、(1)には、将来像にも加えた「自然」をしっかり守り受け継いでいく必要があることから、全ての施策を実施する上での共通認識とするために、「箱根の自然と文化を守り、未来へつなぐ」といった基本姿勢にしたものです。そのほかは変更ありません。

27～28ページをお願いします。「まちづくりの9つの重点戦略」についてです。前回の会議では、8つの重点戦略を提案しましたが、主な変更点をご説明します。

まず、一項目追加したものが、「⑤激甚化する災害に備え誰もが安心できる避難環境の充実」です。町内部での議論で、今後の社会動向を見ても、気候変動による自然災害は避けられないこと、また、①から④までの重点戦略は町民からすると目に見えている課題であり、防災は課題として挙がってこないものであるが、そういったものも行政としてしっかり取り組むべきであるという意見から、防災に関するものを追加しました。そのほかについては、前回の会議から主な考え方について変更はありませんが、前回の会議でいただいた意見をもとに、分かりやすく伝わりやすい見出しに修正しました。①から⑤までは主に暮らしの分野となります。①については、前は「日常生活サービスのアクセス確保」という見出しにしておりましたが、「日々の暮らしにくさを解消する生活環境（買い物・医療等）の利便性向上」に変更しました。これは、「暮らしにくさを解消する」という表現で、しっかりと町民と課題感を共有して取り組むという意味合いでこのような見出しとしたものです。

②については、前回「交通渋滞と交通マネジメントの再設計」としておりましたが、「渋滞の緩和と誰もが便利で快適な交通環境の実現」としました。「交通マネジメント」という言葉が分かりにくかったこと、公共交通機関があるにも関わらず、混雑や高額で使いにくいという課題を踏まえた見出しとしました。

③についても前回から少し変更し、「若者が自らの未来を描き暮らし続けられる環境の創出」としました。若者が箱根に長く住み働き続けていない課題を解決するため、今の生活だけでなく、町内で結婚・子育てといった先の未来まで描けるような環境づくりをする目的でこのような見出しとしております。

④については文言にほとんど修正はありません。子どもたちの郷土愛を育む教育と、外国人住民との共生を含む地域コミュニティの活性化です。

⑥と⑦は観光分野です。

⑥については、前は「高付加価値等」という言葉を使っていましたが、様々なご意見をいただき、もう少し大きな視点で、これからの新しい観光に対応できるよう「新たな観光需要を創出し、進化し続ける観光地づくり」としました。

⑦は人材の確保と受入体制の強化ですが、観光業で働く人材確保だけでなく、町民を含めた町全体で受入体制を構築していくという意味合いで「オール箱根」という言葉を使っております。

⑧、⑨は行財政分野であり、タイトルは若干変更しておりますが、目指す方向は変わっておりません。

この重点戦略については、皆さんの暮らしや事業に直結するものであると考えておりますので、本日ご意見をいただき、次回以降はこの次のステップとして、重点戦略で具体的に何を行うのかという施策などについて議論していきたいと考えております。

29 ページをお願いします。人口ビジョンについては、人口推計で、令和 18 年に総人口が 9,938 人と 1 万人を下回る推計となったことから、次期総合計画で、特に重点戦略の実施により、安定的に 1 万人以上を維持することを示していきたいと考えております。本資料では人口推計の図を掲載しておりますが、町の施策実施による人口目標についての図を掲載する予定です。

30 ページをお願いします。計画の体系については、構成案として前回もお示ししておりますが、9つの重点戦略を主な構成内容とし、その他の分野別の基本的な考えは「分野別方針」とし、基本方針と分野別の個別計画のみの記載とし、メリハリのある計画構成にする予定です。

説明は以上となります。

会長 一点確認したいのですが、今回の基本構想骨子案は、最終的な完成形と比較した場合に、それとかなり近いものなのか、体裁や書きぶりは今後変更されるものか、どちらでしょうか。

企画課副課長 これで決定ではなく、まだ見直し作業を行う予定です。

会長 前半部分で、箇条書きで記載されている部分は文章化されますか。あと、最終ページの「第2章 計画体系」はこの内容だけとなりますか。未定であれば未定で結構です。

企画課副課長 計画体系の部分については、どのようにするか検討したいと思います。箇条書きか文章かについては、事務局でもどちらが良いのか決めかねているところですが、文章にすると長くなってしまいますので、箇条書きで表現できる部分は箇条書きにしたいと考えています。全体の流れも考慮して決めたいと思います。

会長 調整が入るということですね。  
事務局のほうで、この会議において、特にこの点について委員から意見を伺いたいというものはありますか。

企画課長 1点目は、24ページの将来像について、先ほどご説明した考えに基づき前回から修正しておりますので、ご意見をいただきたいと思います。

2点目は、16～18ページの人口推計についてです。日本人と外国人を別々に推計し、令和18年に総人口が1万人を若干下回るという推計をしました。この推計に対して、皆様のご意見を伺いたいと思います。

3点目は、27～28ページの重点戦略について、前回から、⑤の防災に関するものを追加し、9つになっています。それぞれの重点戦略のタイトルについても、前回会議のご意見をもとに修正しております。また、重点戦略の目指す姿についても、ご意見をいただきたいと考えております。

会長 事務局からはこの3点について特にご意見をいただきたいとのことです。いかがでしょうか。皆さんの意見を制限するものではありませんので、これに限らず、気になる点についてご意見をいただきたいと思います。

委員 初めて会議に出席しましたが、町としては観光に重きを置いていて、地域や住民に対する視点が抜けているのではないかと感じました。私は仙石原の住民ですが、月2回ワークショップを行い、地域づくりやコミュニティづくりについて話をしています。箱根町の人口が将来的に1万人を切るということで、町は定住施策を進めていますが、交通、医療、職業のほか、若い人には、教育や子育ての面で安心できる環境づくりを進める必要があると思います。観光客は2,000万人ということですが、地域住民が取り残されているように感じています。住み良い地域、住み良い箱根にしなくてはならないし、若い人に定住してもらえそうな環境づくりもしなくてはならない。そうしないと、人口は自ずと減っていくと思います。また、高齢化率が40%を超えるとのことですが、地域としては、高齢化が進んでも安心して住めるようにしてもらいたいと思っています。地域づくりやコミュニティづくりもやってもらいたいと思います。人口が減り、旅館やホテルが乱立するような状態が進むと、固定資産税は入りますが、その点、町はどう考えているのでしょうか。箱根町が活性化するような考えを持って進めていただきたいと思います。地域は地域で一所懸命にこれからの地域やまちづくりを考えて頑張っています。空き家対策や安全な買い物環境を進め、ある程度住みやすいまちづくりを進めてほしいです。箱根に住んで良かったというのは、単なるきれいごとではなくて、今はどこの地域でも子どもが少なくなり、お祭りや子ども会事業ができないという地域もあります。伝統行事が存続できるような地域づくりをぜひ進めてほしいと思います。

会長 コミュニティや地域住民の視点についてのご指摘だと思いますが、いかがでしょうか。

企画課長 委員におかれましては、日頃より地域において様々なご活動をいただいておりますこと、この場をお借りして御礼申し

あげます。ただいまご発言いただいた部分につきましては、27 ページと 28 ページの重点戦略においても、「①日々の暮らしにくさを解消する生活環境（買い物・医療等）の利便性向上」、「③若者が自らの未来を描き暮らし続けられる環境の創出」、「④次世代育成と共生・共創による地域コミュニティの活性化」、これらを暮らしに関する重点的な戦略として位置づけております。この戦略に基づき、具体的にどのような施策を行っていくのかということは、次の基本計画の中でお示ししたいと考えております。観光の分野につきましては、⑥、⑦の戦略でお示ししております。観光一辺倒の重点戦略ではなく、暮らしにもしっかり取り組んでまいりますし、観光や、⑧、⑨の行財政改革にも、バランスよく取り組んでまいりたいと思っております。将来像で、「にぎわい」という言葉を使っておりますが、この「にぎわい」というのは、観光のにぎわいという意味だけではなく、地域住民の暮らしの中で、交流を行うことで生まれるにぎわいという意味も込めております。暮らしも観光もともに大切であるという認識のもとで、この基本構想を策定しておりますので、その点はご理解いただきたいと思います。

会長

今の課長のご説明は、重点戦略は、地域や住民と観光とは表裏一体の関係であるため、どちらも見ているということだと思います。あとは、基本構想までがこの資料に入っていますが、今後は、より具体化された、もう少し地域が前面に出てくるような内容も出てくると思っています。ほかにはいかがでしょうか。

委員

先ほどのご意見に少し重複する部分はありますが、まず人口が徐々に減っていくというのは、日本全体で出生率が低下し、人口が減少していることもあり、避けられないことだと思っています。ただ、箱根においては、社会増が期待できるのではないかと思います。それはやはり今、色々な場所で開発行為がされて、大型施設の建設ラッシュが起きているからです。それを見ると、2～3年後には、固定資産税の収入が増えるのではないかと考えています。加えて、民泊やゲストハウスも増えている中、2年後に予定されている宿泊税が導入されれば、収入増も期待できますよね。箱根は、大半の

人が観光で食べているので、住民としては、それで食べていけるだけの生活基盤、福祉などを充実させて住みやすくすることが、箱根のにぎわいに繋がるのではないかと考えています。現に中国系や東南アジア系の方が、地域に根差して住んでおり、そのような人との交流も深まりつつあります。そのような人の定着化を進めれば、学校の児童数・生徒数は維持できるのではないのでしょうか。現状では湯本のひとり勝ちであると私は考えています。箱根の奥深くまで観光振興を進めていかないと、湯本で終わりでは駄目だと思います。今後この9つの重点戦略を全部やれば、箱根は本当に素晴らしい町になると考えていますので、実現していく必要があると考えています。

企画課長

今までの総合計画では、町で取り組んでいる施策を全て網羅する形で作っておりましたが、第7次総合計画からは、こちらに記載されている9つの戦略を明記して取り組むこととしております。この戦略は、昨年度実施した町民アンケート結果などから、改めて明らかとなった住民や事業者が感じている課題をまとめたものになっておりますので、住民や事業者の皆さんが感じられている課題にしっかりと取り組むことが、すなわちこの重点戦略に取り組むことであると考えております。このあたりは、今後10年間でしっかりと取り組んでまいりますし、この計画は10年ではなく、さらにその先も見据えた計画になっておりますので、仮に10年間で達成できない部分があったとしても、その先も引き続き取り組んでいきたいと考えているところです。

企画観光部長

委員から観光面の話があったので、少し触れておきたいと思います。委員がおっしゃるように、社会増は目指せるはずだという部分はまさにそのように思っています。具体的に言うと、27ページの重点戦略のうち、「③若者が自らの未来を描き暮らし続けられる環境の創出」ですが、これは何を言っているかということ、箱根町は観光産業が基幹産業であるため、毎年一定数の20～30歳代の流入が春先を中心にあります。ただ一旦入ってきた人が数年経つと、ごっそり抜けてしまうという現象の繰り返しがあります。この原因として捉えていることとしては、働く若者が箱根に住むことに魅力を感じ

じていないということがあります。職場と自分の寮・社宅との行き来だけで人との交流がないこと、それから戦略でも触れていますけれども、買い物に行くにも足がなく、バスはあるものの不便であること、そういった理由で、箱根で生活する楽しみを、まだ感じてもらえていないと考えています。箱根は遊びに来るところで、働いて住み続ける場所ではないというイメージが浸透しているという分析もあります。こういった取組をすれば、この層に対して響き、住み働き続けてもらえるのかを考えたその先で、出生率が多少なりとも上がっていくという好循環を目指せば良いと思っています。今後、基本計画という形で具体的な取組について議論いただくこととなりますが、その中ではそれぞれの施策を点で捉えるのではなく、線や面で捉えるようにし、様々な視点から、戦略の関係性もご理解いただきながら、ご意見をいただきたいと思えます。観光立町と言いながら、若い世代に住み続けてもらえないという大きな課題があるということは、皆さんにも共有いただければと思えます。

会長

そのほか、いかがでしょうか。

委員

社会増が望めるということについては、日本全体の人口は減っているので、社会増となると外国人によるものだと思います。だからこそ町も外国人に関する戦略として、重点戦略の④で、「次世代育成と共生・共創による地域コミュニティの活性化」の目指す姿として「子ども、外国人、箱根ファンといった多様な人材」を出しているのだと思いますが、難しいということは百も承知で言うと、外国人の住民ともっと正面から向き合う必要があるのではないかと思います。2050年までの間に、「構築・転換期」、「定着・成熟期」という期間を設けていますよね。「構築・転換期」の最たる取組が、箱根町ではやはり外国人を受け入れながらの観光産業の持続だと思うので、その点がまさにこの構築・転換期の一番のキーワードではないかと思います。そうだとすると、この重点戦略は少し弱いという印象を受けます。ただ、本当にナーバスな問題であり、行政として表現の仕方が難しいのはよく分かるのですが、もう少し踏み込んだ形で取り上げた方が、住民の皆さんが共通の課題として認識とし、議論できるようになる

のではないのでしょうか。あと、今回の将来像の「にぎわいと自然の恵みを礎に幸せめぐる未来へ」についてですが、これは箱根町の世界観を皆で共有しようというものだと思います。行政が今後行う施策等について情報発信するためにキャッチフレーズやコンセプトを作ることがありますが、世界観はそういうキャッチフレーズやコンセプトのずっと上の概念だと思います。そういう意味で、この将来像は非常に分かりやすく、箱根町の世界観にマッチしていると思います。ただ、今回は計画を新しく作るので新しいフレーズは大切だと思うのですが、現在の「やすらぎとおもてなしのあふれる町—箱根」はどこに行ってしまったのかと疑問に思うところもあります。よくある説明としては「発展的解消」として、この「にぎわいと自然の恵みを礎に幸せめぐる未来へ」の中に吸収されたとすれば良いのかもしれないですが、それだと説明が足りないのではないかと思います。

会長

はい、ありがとうございます。1点目については、外国人を積極的に受け入れて対応していくというニュアンスをもう少し出した方が良いのではないかと、ということでした。

委員

外国人も在留資格の関係で、例えばホテルで働く人というのも、日本全体での受入人数には上限があり、そこに達したら、箱根町が欲しいと思っても受け入れられないということがありますが、現状、外国人住民の割合が総人口の10%を超えていて、将来的に20%以上になるという推計があるならば、外国人住民の一番の問題は、受け入れたものの、地域住民と分断してしまうという可能性があるということですから、どのように融合していくかということ、今のうちから皆さんと一緒に考えていく、日本の文化を知ってもらうということが必要であると思いました。

会長

もう少し融合のイメージを押し出すイメージですね。

後半の将来像の表現についてですが、現計画の表現との整合性等についてももう少し説明できるようにしておいた方が良いというご意見だと思います。重要なポイントだと思いますが、事務局いかがでしょうか。

企画課長

1点目の外国人の関係ですが、これは先ほどご意見をいただいたように、④の戦略に関連することですが、共生・共創の主語には、外国人も当然含まれています。目指す姿には書いてありますが、この戦略名を見た時には分かりにくいという部分がありますので、戦略名に「外国人」という言葉を入れるのか、もう少し違った言葉で「多様な人材」など、何かそういった言葉を入れた方が分かりやすいのであれば、修正したいと思います。

2点目の、現行の第6次総合計画の将来像との関連につきましては、委員がおっしゃるようなことは、当然議会等でも話があるのかなとは思いますが、24ページの説明の中に、これまでの将来像との関連、あるいはその考え方が引き継がれているということを入れられるかどうか、考えたいと思います。

委員

外国人問題は論点の多い話なので、全面に出してほしいということではありませんが、④の戦略の「次世代育成」の「次世代」という言葉は、これから大人になっていく子どもたちというイメージで使われると思うので、そういう意味では、若者の育成というニュアンスが強く、外国人への取組という部分が薄れてしまうように感じました。

企画課副課長

この戦略は、当初は外国人に絞った内容だったのですが、庁内で議論していく中で、あれも足りない、これも足りない、言葉を盛り込み過ぎてしまったとは感じています。しっかり伝わるよう、もう一度見直したいと思います。

会長

外国人の人口に関連して、少しコメントしておきたいと思います。本日机上配付している人口の将来推計の3つのグラフについて、まず外国人人口の将来推計のグラフですが、現状1,000人強の外国人人口は令和18年に2,200人近くになり、その大半がオレンジ色、生産年齢人口ということです。これを踏まえたうえで、もう1枚の総人口のグラフ、日本人人口と外国人人口を足したものの令和18年を見ていただくと、総人口で9,938人、生産年齢人口が6,000人を超えています。生産年齢人口だけ見ると、現状も6,011人で6,000人を維持しています。しかし先ほど申し上げたように、令和

18年の外国人の2,017人が生産年齢人口であるため、実は6,000人中2,000人が外国人ということになります。つまり、現在日本人で賄っている部分の減少分を外国人で代替し、6,000人の生産年齢人口を維持するという、そういう推計になっているということです。何を意味しているかということ、まずは、今回の外国人の人口推計は、これ以上の人数になる可能性が十分にあるだろうということです。国の政策如何という部分がありますが、仮に国の政策が大きく変わらないとしたら、もっと増える可能性もあるということです。一方で、この総人口の生産年齢人口が6,000人を維持しているという数字を見ると、結局、日本人の働き手の減少分を外国人で補っているの、仮にいろいろな施策がうまくいき、日本人が箱根に移住してきた場合、少し外国人に代替される人数が減り日本人人口が増える可能性もあります。この辺りがどうなっていくかというのは、今後の町の施策や経済情勢、社会情勢によって変わるということになりますが、そのような見方をすると良いのではないかと思います。

そのほかご意見やご質問はいかがでしょうか。

委員

皆さんの意見を伺いましたが、重点戦略に関しては、概ねこれで良いのではないかと思います。町の課題も網羅されていますし、それを解決するための方策や方針もあります。先ほど事務局の説明の中にありましたが、観光だけではなく、町民生活にも力を入れていくという方向性で進めていただければ良いと思います。箱根での暮らしに楽しみを感じてもらえるような施策を実施していきたいという発言がありましたので、具体的にどのようなものが盛り込まれるのかということに期待したいと思います。あと外国人の話になりますが、外国人が10年後に2割以上になると予想されており、今よりさらに外国人住民の存在が箱根では当たり前になると思いますので、戦略名に外国人という単語を入れても良いと思いますし、外国人に特化した戦略を一つ増やし10個にしても良いと思います。

会長

はい、ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

委員

この重点戦略が全て出来たら本当に良い町になると思います。金融機関の人間としてお話をさせてもらおうと、私がお話をお伺いしたお客様で、強羅の旅館の方ですが、従業員が箱根に住んでいるものの、買い物や遊びの際には町外に出なくてはいけないということで、強羅から小田原に出るにはそれなりに費用がかかり、新卒で働きに来ているので、少ない給料の中で、遊びに出かけようと思っても気軽に行けないということでした。箱根に若い人が楽しめる場所があればもちろん良いですが、住んで生活するにも、箱根の中で必要な施設が全てまとまっていれば良いのに、という話がありました。

あと最近ですと、芦之湯でこれから事業開始する会社があるのですが、従業員は皆小田原から通うという話でした。働く場所は箱根、住む場所は小田原という形態が多いと感じています。これは交通インフラの民間事業者とのタイアップが必要になってくる話だと思いますが、住民はあまり費用をかけずに町外に出ることができるなど、地域住民のためだけの特典があると良いのではないかと思いました。たくさんの方が箱根に働きに来ているのに、箱根に住まず、小田原から通っているというのは、もったいないと感じました。

企画課長

今、委員がおっしゃったお話は、アンケートなどからも見えてきており、何か手を打たなければいけないという認識は町としても持っているところですが、具体的にどのような施策を基本計画に位置づけていくのかということは、これから考えていかなければいけないと思っております。公共交通機関の運賃の高さの解消や、若者が箱根に住み続けられるような楽しみの場の創出など、なかなか難しく、一朝一夕にはできない取組だとは思いますが、考えられることは少しずつ着手していけたら良いと考えております。

会長

この重点戦略のリストについては、今までご発言くださった委員はだいたい納得できるということだと思えます。基本的に戦略なので、今後何を実現していくかということが書いてあるわけです。いかに実現するのかというのはこの後の基本計画に書かれるということです。つまり、基本計画には、手段が書かれるということですが、その手段が拍子抜けだと

重点戦略が絵に描いた餅になってしまうので、そういう意味では、ここに示した重点戦略が実現できそうだと思うような基本計画をぜひ今後、検討していただきたいと思います。その中で、委員からいただいたご意見をできるだけ盛り込むようにすると良いと思います。

企画課副課長

本日欠席の委員からもコメントをいただいておりますので、この場で共有させていただきます。

将来像については、「自然の恵み」というフレーズは、住民にとっても、観光客にとっても、箱根の魅力であることは間違いありません。またサステイナブルな箱根町を築くうえでも重要であると考えておりますので、キャッチコピーに追加することに異議はありません、とコメントをいただきました。

人口推計についても、しっかり根拠があれば、この推計で異議はありません、とのことです。

重点戦略については、将来像に「自然の恵み」というフレーズを入れるのであれば、重点戦略にも、そういったことを含んだ方が良いのではないかと、とのことでした。現在、宿泊施設を造成するために森が切り開かれており、2050年を展望した時に、無制限の開発と規律あるまちづくり、どちらが住民や観光客に有益であるのかということを考えるべきではないかと、とのことで、自然の恵みを守るということを中心戦略に盛り込んだほうが良いのではないかと、というご意見をいただいております。町としては、以前から自然に関してご意見がある中で、今のところは、どの施策に関しても、自然を守るという意識は重要であるという認識を持つということ、まずはこの26ページの「まちづくりの基本姿勢」の中で、箱根の自然と文化を守り未来へつなぐということを基本的な考え方として示しております。これで足りるかどうかは分かりませんが、重点施策の中についてもこちらで検討したいと思います。

会長

自然に関する配慮については、私も質問しておりました。SDGsとの関係性も何か示すような形にしても良いと思いますので、ご検討をお願いします。

委員からは、自然に配慮するというようなことを何らかの

形で盛り込んだほうが良いというご指摘があったということです。

将来像の文言については、実は第6次の計画も私が審議会の会長を務めている中で作ったので、私の責任もあるところです。達成できていないのであれば変えなくて良いのではないかとということも事務局へ申し上げましたが、今回は、総合計画の作り方や在り方を変えるということもあり、刷新するために、従来の精神や方向性を引き継いだ上で、より発展させた将来像を作りました、という説明をできるようにしたら良いと思います。少なくとも、町長が変わらない限り、第8次でもこの将来像は維持するという方向性としたら良いのではないかと思います。町長が変わると、新町長の考えもあるでしょうから、変えたいという思いがあるかと思いますが、現町長が在職の限りはこの将来像を維持するというような共通認識を役場内部で持たれたらどうかと個人的には思います。特にこれについて答えを求めるといふものでありません。

そのほかいかがでしょうか。

委員

細かい部分で恐縮ですが、14ページ「箱根町を取り巻く社会動向」の「(1)全国的な人口減少、少子高齢化」の3つ目で、「地方税収の減少と社会保障関連費の増大」とありますが、地方税収は多分横ばいか若干微増しているのではないかと思います。今、国においては国税もインフレ等により増えていて、地方も、固定資産税が土地の価格上昇により増えているので、この点は確認しておいた方が良いでしょう。

会長

この部分は、実態に正確な表現をお願いできればと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

企画課長

将来像の関係になりますが、「礎」という言葉について、庁内会議の中で、職員から、難しい言葉ではないかという意見がありました。「基礎となる」という意味で「礎」という言葉を選んだのですが、委員の皆さんに、この「礎」という言葉に対して、何かご意見やご感想等あれば伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

委員	個人的にはこれで良いと思います。「礎」という言葉は、前回の案には入っていませんでしたか？
企画課副課長	入っていませんでした。「自然」という言葉も入っていませんでした。
委員	これを決定稿とするよりは、いくつかパターンを出して選定するなど、もう少しもんだほうが良いと思います。
会長	もう少し色々なバリエーションを出して選んだ方が良いということですね。委員は、今の案に対して何かご意見はありますか。
委員	この文言だけだと、箱根が浮かんでこない気はします。箱根らしさが絶対に必要かというところから分らないですが。
企画課副課長	将来像の表現は、事務局でも「礎」に代わる言葉がないかとたくさん調べましたが、語呂は「礎」とすると七五調に近くて言いやすいということもあり、これにしています。代替となる言葉を調べると、例えば「土台」や「もと」という言葉もありますが、決めあぐねているというのが今の状況です。
会長	私の印象では、「礎」というと、今からスタートする、出発点というニュアンスが出て、悪くないと思います。あと視覚的に、「礎」という漢字が真ん中にあり、見た目のバランスが良いですね。私は将来像には特にこだわりがないので、ほかの表現でも構いませんが、私の印象はそういうものです。委員の皆さんも大きな違和感はないというようなことですね。
委員	重みのある表現で良いと思います。
会長	役場内で幾つか案が出れば、この会議で委員からご意見がいただけたらと思います。

- |        |  |
|--------|--|
| 委員     | 意見を出す時に、若者からはカタカナ言葉が出てきがちですが、そういった言葉に比べると、「礎」という言葉はしっくりくる言葉だと思います。   |
| 企画観光部長 | 役場内で意見を聞いた時、「礎」という言葉は、大人はもちろん分かりますが、例えば小学生など、次の総合計画は次世代を担う子どもでも分かるというコンセプトで作っているのにそれと矛盾はしないかと、そのような意見が出ました。  |
| 委員     | これくらいの言葉であれば分かるのではないのでしょうか。  |
| 会長     | 「礎」という言葉は、小学校や中学校の校歌に出てきそうな言葉ですから、そういう意味ではそんなに問題はないと思います。皆さん、強い違和感はないようです。<br>そのほかいかがでしょうか。  |
| 委員     | 日本国内の観光地に行くと、大体観光の中心は奥の方にあつて、入り口のあたりにはスーパーやドラッグストアなど、地元で利用できるような施設があるように思います。箱根の場合は、地域が離れていてなかなか難しいと思いますが、そういった施設が集まっている場所があると良いと思います。そこには買い物をするだけでなく、文化的な施設もあれば良いですが、どこか一ヶ所でもそういう場所があれば、小田原や御殿場に行かなくても、ある程度はそこで済むようになると思います。これは具体的な話になりますが、そういうものがなかなかなくて、せいぜいドラッグストアができるという程度なので、やはり、ある程度の物が揃えられるような町並みが欲しいなと思っています。 |
| 会長     | 重点戦略に今回加わった「激甚化する災害への備え」ですが、箱根は自然災害が起こると、交通が寸断されて物資が届かない恐れのある地域だと思います。そういう時に、スーパーなどが町内にあれば、少なくとも生活物資は、何日間か確保できるという、そういう面のメリットもあると思います。今、委員は日常の利便性の向上という観点でおっしゃったと思いますが、災害対応という面でも、意味があると思います。いかがでしょうか。   |

企画課長

買い物のできる施設は、住民にとっても町内にあった方が暮らしやすさに繋がると認識しています。現在、民間事業者が宮城野にドラッグストアを建設中ですが、そこに至るまでには町も関わっており、近くにある町有地への誘致に向けた交渉を行うなどして、町も出来る限り協力し、現在の建設に繋がっていると認識しています。町として協力できることは今後もしていきたいと考えていますし、災害時等でも、町外まで買い物に行かなくてもある程度のものは揃えられるといったことに繋がっていけば良いと思っております。また先日、町長が議会において報告をしたところですが、宮ノ下の一旦閉鎖となったガソリンスタンドについて、引き続き営業していただける別の事業者が見つかりました。町長も安堵しておりましたが、そういったところも、民間任せにせず、町の関係部署が粘り強く働きかけ、こういう結果に繋がったと思っています。基本計画の中で、具体的な施策がどのように盛り込めるのか、現時点では申し上げられませんが、今後何らかの形で取り組んでいきたいと考えております。

会長

はい、ぜひご検討をお願いします。

委員

15年くらい前ですが、清川村が村を活性化するために大型ショッピングモールを誘致しようとして出てきたのがクリエイトです。クリエイトは強力コンテンツですので、ドラッグストアは本当に良いと思いますし、規模感も、土地がないと大きな店舗はできないですが、クリエイトならちょうど良いのではないかとお話を聞きながら思っていました。

企画観光部長

関連になりますが、施設を誘致するにしても、更地を提供できるかという難しい中、一つ視点として持っていなければいけないと考えているのは、公共施設問題です。箱根町に限らず、どの自治体でも、高度経済成長期に建てたものが軒並み40年50年経ち、建替えについて考える時期が来ています。そういった中、公共施設のマネジメントという面では、今までの施設をそのまま同じように維持していくというのは財政上許されないことでもあります。人口減少下にあっては、一つの考え方として、施設の建替期に、機能の集約化や

民間施設の一部導入など、民間活力を活用しながら、住民サービスの向上と、それから観光客も利用できるという、そういう視点も持つ必要があると思っています。計画を検討していく中で、施策としてどういったことができるのか、皆さんとも一緒に考えたいと思います。

会長

ぜひ、よろしくお願いします。

この基本構想までの骨子案についてご意見をいただけるのは、今回が最後となりますので、何か気になる点がありましたら、お願いします。

委員

24ページのサイクル図ですが、最初に委員がおっしゃった「住民が見えない」という意見と関係してくるかと思いますが、例えば「観光」から「行財政」に税収増の矢印が出て、「行財政」から「観光」には観光まちづくりの投資、「暮らし」には住民サービス、という矢印は分かりやすいのですが、「暮らし」から「観光」に伸びている矢印の内容がすんなりと理解できません。「観光客受入れの理解・協力」、「観光資源を通じた学びや体験」とありますが、ここだけじっくりこないです。飛躍しているとまでは言わないですが、ワンクッション飛んでいないかと感じました。ここが繋がると、先ほどの「住民が見えない」が解消されるのではないのでしょうか。

会長

よく見ると確かに違和感がありますね。図の下に「最終的な計画に合わせて修正」とあるので、確定版ではないということですが、事務局は内容も確認をしてください。矢印の色が上と下で違うのは、意図があるのかもしれませんが、少し分かりづらい面もあります。あと全体に資料に入っている図のサイズが小さいので、最終的には調整をお願いします。この図を子どもが理解できるかというと、おそらく理解できないと思います。子どもが理解できる程度まで簡略化するかどうかはまた別ですが、そのほかいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それではご意見をいただく時間はここまでとさせていただきますと思います。

本日も、様々なご意見・ご質問をいただきましたので、反映できる部分については、できる限り、この骨子案に反映するように事務局で対応をお願いしたいと思います。審議会と

しては、大きく内容を修正するようなご意見はなかったように思いますので、基本的に今回の内容で進めていくということでご了承ください。

それでは議題は以上で終了となりますので、進行をお返しします。

企画課長

本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございます。本日いただいたご意見につきましては、反映できるものは反映し、基本計画に繋げていきたいと考えております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

以上